



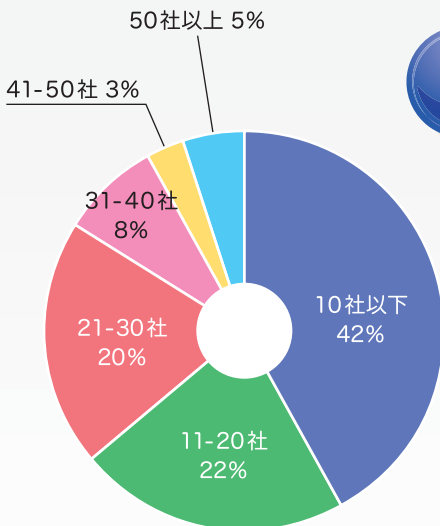
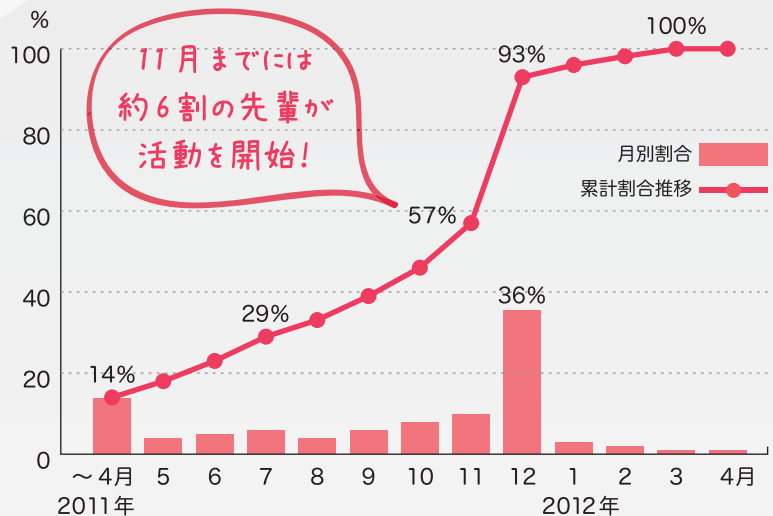
理系の就職活動

理系の先輩たちはどのように就職活動を進め、どんな会社を選んだのか…
 理系学生の場合、「周囲に就職活動をしている先輩が少なく、ロールモデルがあまりない」という方も珍しくなく、就職活動について知る機会が少ないといえます。
 このページでは、2013年卒業予定で就職活動に取り組んだ理系の先輩たちのデータを集計しました。
 理系の先輩たちがどんな就職活動をしたのか、データから読み解いてみましょう。

1 就職活動を始めた時期

倫理憲章(*)の影響で2013年卒の学生から就職活動の開始時期が12月(それ以前は10月から)になりました。そのため、月単位で見ると12月が最も多く、36%の学生が就職活動をスタートさせています。とはいえ、11月までになんらかの行動を起こしている学生が57%おり、インターンシップ参加など早期に動いている学生も少なくありません。

※新規卒学生の採用・選考に関する倫理憲章
 ⇒日本経団連が中心になって定めた新卒者の採用活動に関するガイドライン。



2 エントリーシート提出数

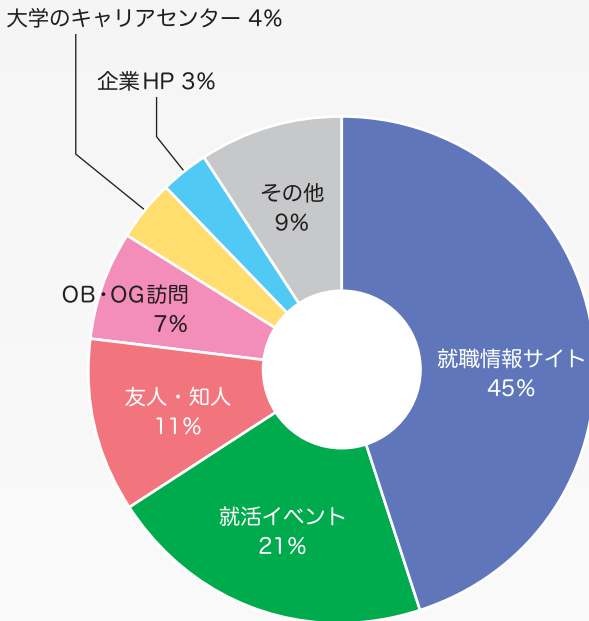
理系は厳選してエントリーしている学生が多く、多数派は「10社以下」です。一方で、平均値以上のエントリーをしている方は4割弱となっています。推薦応募を中心に活動している学生はエントリー数が少なめになりますが、自由応募をメインに活動している学生やいわゆる文系職種を志望している学生は多めとなっています。

平均エントリー数



3 重視した情報収集方法

就職情報サイトを重視しているという方が多いですが、OB訪問やセミナーで社会人と実際に会うスタイルの情報収集が役に立ったというコメントも多く寄せられています。理系ナビでも、小規模で社会人とじっくり話せるセミナーを開催しているので、ぜひ活用してください！



就職情報サイト

「先輩社員のインタビューが仕事理解に役立った」「一般常識やビジネスマナーについての読み物が参考になった」「志望業界の情報が充実している就活サイトを活用した」

就活イベント

「一度に多くの企業の情報を得たい場合、合同セミナーが便利だった」「小規模で社員の方とじっくり話せるイベントが良かった」

友人・知人

「同じ業界を志望している仲間同士で情報交換でき、非常に助かりました」

OB・OG訪問

「OB訪問が最も効果的だった。志望業界でなくても、目上の社会人と話すというだけで貴重な経験になると思います」「インターネットや書籍から集められる情報は当然集め、その上で会社説明会やOB訪問などを通じてリアルな情報を集めました」

大学のキャリアセンター

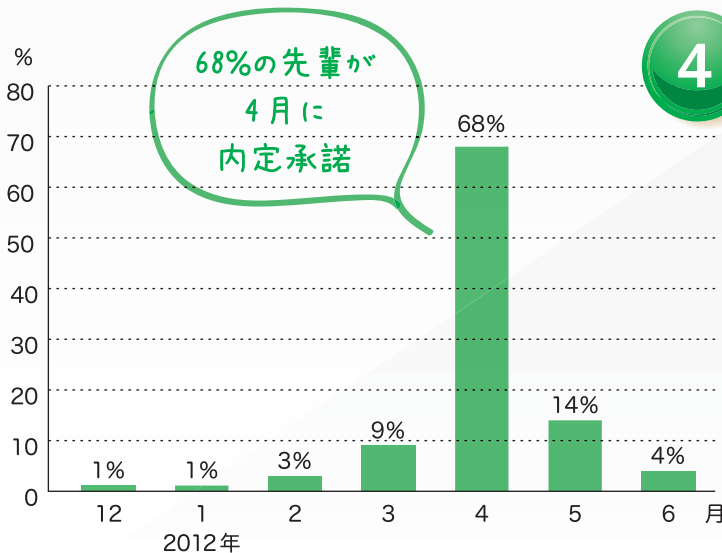
「学校推薦を利用したので、就職課の情報をよく利用しました」

企業HP

「志望度の高い企業はIR情報などをしっかり読み込みました」

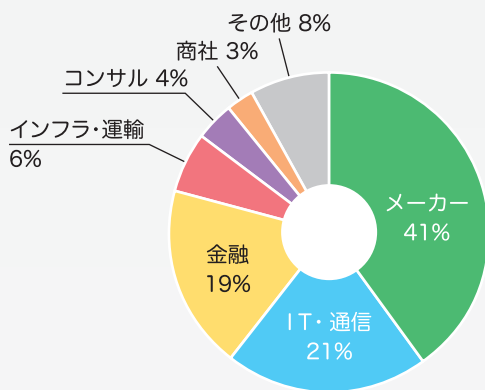
その他

「会社情報についてまとめているWebページや、より具体的な情報源として転職サイトを使用」「幸運なことに大学OBによる合同懇親会が多く、そこで志望業界の先輩から話を聞いた」



4 内定承諾時期

2012年卒は震災の影響で内定時期が分散しましたが、2013年卒は2011年卒以前とほぼ同じような傾向となっています。4月のタイミングで大手企業を中心に一気に内定が出ているようです。また、今回の調査タイミングでは集計できませんでしたが、夏から秋にかけて内定出しをする企業も少なくありません。



5

業界別内定承諾企業

内定を承諾した企業の業界については約4割をメーカーが占めました。それに続いたのが金融、ITでいずれも約2割です。さらに内訳の業態を見るとメーカーでは総合電機、自動車、素材などの技術系職種、IT業界ではSierのSE、金融系では数理能力を活かせるアクチュアリーなど金融専門職への内定が多く見られます。

6

内定承諾の決め手

内定承諾の最終的な決め手で1位となったのは「業務内容」。「この仕事をしたい!」という想いが決め手となった方が多いようです。業務内容を選んだ方のコメントには、「職種」だけでなく、「グローバルに活躍できる」など自身が望むワークスタイルを叶えられる企業であることが決め手となっているようです。

成長性

「成長している会社でなら面白いような仕事ができると思ったので」「同業界の中で成長の可能性が一番高そうな企業」

社風

「社員の皆さんの仕事に対する真摯な姿勢に惹かれました」「社員の方から『働く理由』を聞き、一番共感した会社」

その他

「転職市場が整っているかどうか」「自分のことを本当に評価してくれているかどうか」「勤務地重視で転動のない会社」

1. 業務内容
2. 規模・影響力
3. 社員の魅力
4. 成長性
5. 社風
6. 環境
7. 給与・待遇
8. ステータス・ブランド
9. 裁量権
10. 商品・サービス

業務内容

「事業領域が幅広く、様々な仕事に挑戦できると考えたから」「海外で活躍できる仕事があった」「希望する部門・職種に確実に配属してもらえるかどうか」

規模・影響力

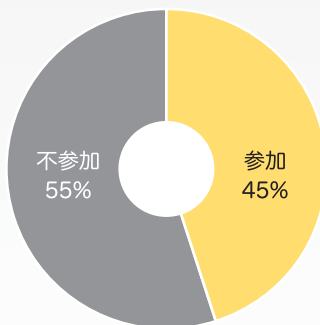
「会社の規模と安定性、財務基盤などから総合的に判断」「長期的なキャリアを考えた際、業界トップの企業ならより成長できる環境があると感じたので」

社員の魅力

「社員の方がどれだけ仕事に面白さや魅力を感じているかで決めました」「社員や会社の雰囲気と自分がマッチするかどうかを重視した」

7

サマーインターンシップ参加率



参加した理由

「自分がどの業界に向いているか見極めるため、異なる業界のインターンに参加しました」「志望業界は決まっていたが、社風や業態ごとの違いを知りたいと思い、複数のインターンに参加した」「IT業界の仕事内容を詳しく知ることができたので」

多忙な理系学生ですが、スケジュールの合間を縫って45%がインターンシップに参加しています。参加の目的で一番多かったのは「業務理解を深めるため」でした。ちなみに、サマーインターンシップ参加者のうち26%が参加した企業の内定を獲得しています。

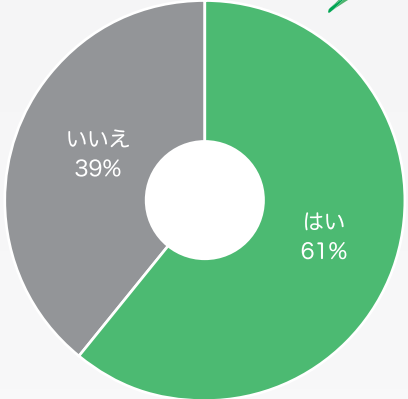
8

専攻・研究分野を活かせる仕事を希望したか

大学での専門性を活かせる仕事に就きたいと考えていた理系学生は61%、Noと答えた方は「専攻にとらわれず幅広い仕事を見てみたかった」「自分の専攻を仕事にするのは難しいと思ったから」といった意見が多く見られました。

6割が
専攻・研究分野を
活かせる仕事を
希望

希望しなかった
「大学での研究とは異なる業界で働くことで、自らの能力の幅を広げることができると思ったので」「就活を通して、自分のやりたいことが見つかったから」「専攻を活かせる会社はほとんどないため」



希望していた
「研究室での研究を通じてより研究が好きになったため、社会に出ても研究に携わりたいと思った」「様々な企業を見るうちに、自分の専門分野の業界に入ることが一番自分の能力を活かせそうと感じたから」「大学で学んだ知識を社会で活かしたいと思ったから」

9

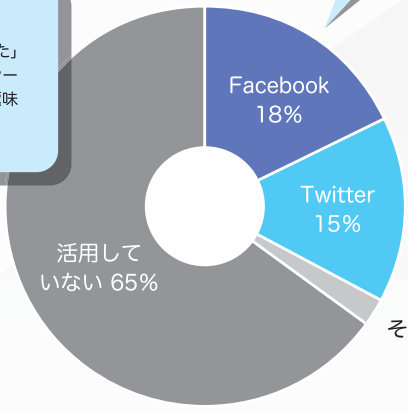
就職活動で活用したSNS

ソーシャル・
ネットワーキング・
サービス


TwitterやFacebookといったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した就職活動が目目された昨年ですが、実際に活用している学生はまだそれほど多くありません。具体的な活用方法としては、「友人との情報交換・コミュニケーション」という方が最も多く、「SNS経由で発信されている企業情報の収集」が続きました。中には「SNSでOBを探してアポイントを取った」という行動的な方も。

Facebook
「企業ページを見たり、友達と情報交換をした」「主に就活関連のセミナー情報を得るために」「企業ページに社員のプライベートや業務の紹介といった情報があり、働くイメージを掴めた」「OBを探したり、アポイントを取るのに活用した」

活用していない
「どう活用したらいいのか、よくわからなかった」「特に必要性を感じなかったので」「プライバシーの観点から活用しなかった」「SNSは自分の趣味や楽しみのためのものなので」



Twitter
「友人や就活を通じて知り合った人との情報交換」「就活関係のアカウントをフォローし、イベントなどの情報収集」「企業の人事アカウントをフォローして、説明会やES締切日などを確認した」

DATA 
調査対象：理系ナビ2013会員
調査期間：2012年5月～6月
調査方法：メールによる入力シート返信
回答数：252名
※図表の小数点はいずれも四捨五入